

リーディングDXスクール事業【実践事例】

たつの市立龍野東中学校（兵庫県）【指定校】

【取組内容】 GIGA環境で校務を変える 働き方改革と教育の質向上を両立する校務DX【④】

1 <事例の概要>

主なねらいは、GIGA環境を活用して校務の効率化・省力化を図ること、教員の負担を軽減し、子供と向き合う時間を増やすこと、情報共有の迅速化・円滑化を図ること、データに基づいた教育活動の改善を推進すること、そして保護者との連携を強化することです。

2-1 <具体的な取り組み>

まず、会議資料のデジタル化を徹底しました。職員会議、学年会、教科会など、これまで紙で配布していた資料をすべてデジタル化し、クラウドストレージで共有するようにしました。これにより、資料の印刷、配布、保管にかかる手間と時間を大幅に削減することができました。

情報共有の効率化も、校務DXの重要な柱です。出欠管理、成績処理、通知表作成などを校務支援システムで一元管理することで、教員間での情報共有がスムーズになりました。また、教職員間の連絡、情報共有、スケジュール管理などをグループウェアで実施することで、会議や打ち合わせの回数を減らすことができました。職員室にはデジタルサイネージを設置し、学校行事の予定、連絡事項などをリアルタイムで表示することで、情報伝達の漏れや遅れを防ぐようにしました。

保護者との連携強化も、校務DXの重要な目的の一つです。学校ホームページを充実させ、学校行事の予定、お知らせ、学校だよりなどを積極的に公開するようにしました。また、緊急連絡、学年・学級だよりなどをメール配信システムで迅速に配信することで、保護者とのコミュニケーションを密にしました。さらに、家庭学習の状況や学習成果を保護者と共有できる学習支援プラットフォームを活用し、家庭と学校が連携して生徒の学習をサポートする体制を構築しました。

2-2 <具体的な取り組み>

教職員の働き方改革の観点からは、対話的・協働的な職員会議・教員研修の実施も重要な取り組みです。職員会議の一部をオンライン会議ツールで実施することで、移動時間を削減し、会議への参加率を高めました。会議資料や研修資料を共同編集ツールで作成することで、資料作成の効率化と、教職員間の協働を促進しました。外部講師による研修や、他校との合同研修をオンラインで実施することで、研修機会の拡充と、教員の負担軽減を図りました。

本校では、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータを積極的に利活用しています。アダプティブラーニング教材やデジタル教材から得られる学習履歴（スタディ・ログ）を分析し、個に応じた指導に活用しています。具体的には、生徒のつまづきやすいポイントを早期に発見し、個別の補充指導を行ったり、学習進度を把握し、適切な課題を提供したり、学習意欲の向上を促す声かけを行ったりしています。また、欠席・遅刻・早退状況、保健室利用状況、生徒アンケート結果などをデータベース化し、生徒指導上の課題の早期発見・早期対応に活用しています。これにより、不登校傾向の生徒を早期に発見し、関係機関と連携したり、いじめの早期発見と迅速な対応につなげたり、生徒の悩みや不安を把握し、相談体制を充実させたりすることができました。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

たつの市立龍野東中学校（兵庫県）【指定校】

【取組内容】 GIGA環境で校務を変える 働き方改革と教育の質向上を両立する校務DX【④】

3＜教師の働き方改革への効果＞

取り組みの結果、教員の働き方には、以下のような変化が見られました。会議資料の印刷・配布、会議室への移動などの時間が削減され、会議時間が短縮されました。教職員間、そして保護者との情報共有が迅速化され、連絡ミスや行き違いが減少しました。これらの変化により、教員の負担が軽減され、子供と向き合う時間が増加しました。また、学習履歴や生徒指導上のデータを活用することで、より効果的な指導が可能になり、教育の質向上にもつながることが期待されます。

4-1＜成果＞

校務DXは教員の働き方改革に大きく貢献することが改めて確認できました。教員の負担軽減、業務効率化、情報共有の迅速化など、多くの成果が得られました。また、学習履歴や生徒指導上のデータを活用することで、教育の質向上にもつながる可能性が示されました。

4-2＜課題＞

ICT環境の安定性、特にネットワーク接続の安定性は、校務DXを推進する上で不可欠です。また、教員によってICTスキルに差があるため、継続的な研修やサポート体制の充実が必要です。情報セキュリティ対策も、これまで以上に重要になります。さらに、データ活用をより効果的に行うためには、データ分析の専門知識を持つ人材の育成や、データ活用に関する体制の構築が求められます。

5＜今後の展望＞

まず、校務用PCの増設、ネットワーク環境の強化、セキュリティ対策の強化など、ICT環境のさらなる整備を行います。教員のICTスキル向上に向けて、研修の充実、ICT支援員の増員、教員同士の学び合いの促進など、様々な方策を講じます。

データ活用体制の構築も急務です。データ分析の専門家（データサイエンティスト）の配置や、データ活用に関する研修の実施などを検討します。保護者との連携をさらに強化するため、オンラインでの情報提供を充実させるとともに、双方向コミュニケーションツールの導入も検討します。

さらに、他校との連携も積極的に進めます。校務DXの先進事例を共有し、互いに学び合う機会を設けることで、より効果的な校務DXの実現を目指します。

